

マンツーマンコミッショナー運用マニュアル（案）

茨城県ミニバスケットボール連盟

1. 目的

マンツーマンコミッショナー（以下、「コミッショナー」）は、違反行為を取り上げて罰則を適用することを目的とするのではなく、マンツーマンディフェンスに対する理解を推進し、望ましいマンツーマンディフェンスを普及していくことで、子供たちがバスケットボールを楽しめる環境を構築し、ミニバスケットボールをより発展させることを目的とする。

2. 推進体制

別紙「マンツーマンディフェンス推進体制（案）」を参照

3. 運用規定

- 3-1. 茨城県ミニバスケットボール連盟所属チームは、コミッショナーを設ける。
- 3-2. チームのコミッショナーは、県連盟・地区で開催されるマンツーマンコミッショナー講習会・研修会に参加し、承認されなければならない。
承認されたコミッショナーには、県連盟発行証（コミッショナーカード）を発行する。
- 3-3. コミッショナーは試合において、JBA「マンツーマンディフェンスの基準規則」・「マンツーマンディフェンスの基準規則・補足解説」に則り、正しいマンツーマンディフェンスが行われているか、ゾーンディフェンス禁止に関する違反がないかを観察し判定する。
- 3-4. コミッショナー席は、試合が見渡せる場所に設置する。
担当するコミッショナーは、試合前に両チームのコーチ及び審判員に着席場所を伝えコミッショナーカードを提示し、職務中は首よりかける。
- 3-5. コミッショナーの配置人数は、1名ないし2名とする。
2名の場合は、コミュニケーションをとり観察し「マンツーマンコミッショナーチェック表」に記入する。
- 3-6. コミッショナーは、違反行為が生じた際に「黄色（注意）」の旗を振り、そのチームのベンチを指し、コーチ・選手の対応を確認する。
黄色旗が上がっているにも関わらず改善されない場合は、「赤色（警告）」の旗を上げ、ゲームクロックが止まった際に審判に伝達し、主審は両チームのコーチをTO席前に招き、コミッショナーが両チームのコーチに対して違反行為についての説明を行う。

- 3-7. コーチから選手に説明する時間が必要な場合、T O席前にコート上の5人の選手を集め、コミッショナー同席のもと、速やかに説明を行い試合を再開する。
コーチからの要請があった場合や、コーチが誤った伝達をしている場合には速やかにコミッショナーが説明を行うことにする。
- 3-8. 悪質（故意的）な違反行為については、「黄色（注意）」の旗を振らずに、すぐに「赤色（警告）」の旗を上げることも可である。（試合終了間際などを含む）
- 3-9. 2回目以降のマンツーマンディフェンスの基準規則違反「赤色（警告）」に対しては、コミッショナーからコーチへの説明の後に、対象チームのベンチ（コーチ）にはテクニカル・ファウルが適用される。
- 3-10. コミッショナーは、試合中、クォーター間、ハーフタイム等々必要に応じてコーチ・審判とコミュニケーションを図り、円滑に試合が進行できるよう努める。
- 3-11. 試合終了後、コミッショナーは速やかに「マンツーマンコミッショナーチェック表」をコミッショナー委員長に提出し報告する。

※審判が「赤旗（警告）」の旗に気付かない場合は、ゲームクロックが止まった際にブザーを鳴らすことも可とする。

※判定及び選手に意識を持たせるために、視覚的にわかりやすくコートに「ミドルライン」を引いてもよい。 その場合、競技に支障のない色を使用する。

※違反行為の判定にあたっての留意点として、体力・技術不足により故意ではない違反行為が起こる可能性もあるため、違反行為の判定にあたっては留意すること。

付 則

この「マンツーマンコミッショナー運用マニュアル」は、平成28年4月9日より施行する。